

第6章

スキルにする

毎回同じ説明をして頼んでいる仕事を、一言で頼めるようにします。

これがスキルです。

一言で頼めたら、今日のゴールです。

動画6と一緒に使うノートです / AI FIRE部（佐藤彩佳・小川春香・亀山千晴）

この章の進め方

順	やること	使うもの
1	動画6を見る	動画6
2	スキルにする仕事を決める（第5章でやった仕事）	このノート
3	その会話の中で、スキルにしてもらう	プロンプト 6-1
4	新しい会話で、一言で呼んでみる	このノート
5	今日のチェック	このノート

プロンプトは、このノートに全部のせています

「▼ここからコピー」～「▲ここまで」をコピーして、会社のフォルダを開いたClaude Codeに貼るだけです。

注意 はじめる前に

いつも、会社の**大元のフォルダ**（特典①で作った「AI秘書」フォルダなど、いちばん上のフォルダ）を開いてから始めてください。部署のフォルダの中ではなく、いちばん上です。

1 スキルは、仕事の「レシピ」

スキル=仕事の手順書

一度レシピにしておけば、次からは「あれ作って」の一言で、同じ手順で作ってくれます。

スキルとコマンドのちがい

コマンドは、スキルの「小さい作業版」。**自分でも作れます**。「/名前」と打って呼び出します (/clear の仲間)。**スキル**は、話しかけた内容から、AIが「この手順書を使おう」と自分で判断して動いてくれるもの。**コマンドは小さな作業に、スキルは一連の作業に**。スキルも「/名前」で呼び出せるので、**迷ったらスキルにしておけば大丈夫**です。

💡 ポイント

- **スキルにする合図は「3回」**

同じ頼み方を3回したとき。または、これから3回以上くり返す予定の作業のとき。毎週の投稿、毎月の請求書、お客さまへのお礼など、「またやる仕事」です。

- **1つのスキルには、1つの仕事**

欲張って全部入れないのがコツです。

2 一緒に最後までやって、直して、「スキルにして」

最初の仕事は、時間がかかってあたりまえ

AIは、新しいことを覚える「ゼロからイチ」が苦手。新入社員と同じです。でも、**一度覚えた仕事は、教えなくても同じクオリティ**でやってくれるようになります。

仕事を分解して、一歩ずつ（例：セミナーづくり）

台本：セミナーの骨子（ターゲットやメインメッセージ）→ 構成
→ 章の中の項目 → 本文

スライド：1枚で話す分量・デザイン・文字の量・
イラストのイメージ

💡 ポイント

- **やりとりが多くても大丈夫**
それは、仕事のやり方をAIに教えている時間なんです。
- **完成したら「次もやるから、スキルにして」**
これで、あなたの使える武器が1つできました。
- **楽にならない人は、スキルで止まっている**
チャット型のAIに毎回1つずつ指示していると、同じことを何度も伝えたり、日によって出来が違ったり。スキルまで進むと、頼んだら、できあがるまで**コーヒーを飲んでいてもいい**んです。

3 よかった仕事を、スキルにする

第5章でやった仕事の会話の中で、これを貼ります。

6-1 スキルにする

▼ここからコピー

今の仕事は、これからも何度も頼みます（同じ頼み方を3回したとき、またはこれから3回以上くり返す予定の作業のとき）。
次から一言で頼めるように、スキルにしてください。
「どんなときに使うか・必要な材料・手順・確かめること・保存先・私の確認がある場面」を整理してから作ってください。

▲ここまで

彩佳 「朝礼」「終礼」「セミナーの台本」「スライドづくり」。
どれも一言で動きます。セミナーのスライド182枚は、台本から作ってもらって**1時間かかりませんでした**。私が直したところとAIの最初の案を比べて、次からそのとおりに作るスキルにしたんです。**いちばん労力がかかる作業をスキルにできたとき、ふっと肩の力が抜けました。**

💡 ポイント

- 「確認がある場面」をしっかりと見る
送信や支払いの前に、ちゃんと止まってくれるようになっているか。読んで、よければOK。
- 小さな仕事から、スキルにしていく
小さなスキルがたまると、つなげたり続けて動かしたりできて、大きな自動化に育っていきます。



確認

新しい会話で、一言で呼ぶ

新しい会話を開いて、「返信の下書きをお願い」のように一言で呼んでみてください。同じように動いたら成功です。

4 よくあるつまずき / 今日のチェック

😞 よくあるつまずき

● スキルが動かない

「こう言われたら動く」という言葉が、せますぎないかを見てもらいます。「返信」と言ったときも「お返事」と言ったときも動くように、**言葉を足してもらいます。**

● 人が作ったスキルを入れたい

セミナーの特典で配られるスキルなども、ここに入ります。
中身を確認してから入れましょう。何をするスキルか、勝手に送ったりしないか、AIに読んでもらって確かめます。

彩佳 私が実際に入れて使っている、マーケティングのスキル「軍配」(Brain)

<https://brain-market.com/u/ikehaya/a/bzQTN3UjMgoTZsNWa0JXY?from=bwADO5gzMgojclNXd>

※PR (アフィリエイトリンクを含みます)

今日のチェック

- ☐ スキルにする仕事を1つ決めた
- ☐ 6-1を貼って、スキルの中身を見た
- ☐ 「確認がある場面」を確かめた
- ☐ 新しい会話で、一言で呼んで動いた

一言で頼めたら、今日のゴールです。スキルは作って終わりじゃありません。**作る → 使う → 直す → スキルが育つ。**次の章では、できたものを自分らしく直して、スキルを育てていきます。

5 AIと一緒に進める

STEP 1 ノートを入れる

AIに読ませるノートのページで

「ダウンロード」を押し、Claude Codeの入力欄の左下の「+」で「AIに読ませるノート_第6章.md」を選ぶ。

STEP 2 ひとつを送る

このノートを読んで、第6章と一緒に進めて

STEP 3

AIが**1つずつ**聞いてくれるので、答えるだけ。スキルにする仕事を決めて、中身を見せてから作ってくれます。

💡 ポイント

- 「+」でうまく入らないときは
同じページの「全部コピー」を押して、入力欄に貼り、そのまま送ってもOKです。
- ノートのページ
<https://aifire-note.pages.dev/>

😬 止まったら

- スクショを貼って「この画面で止まっています。次に何をすればいい？」と聞く。
- それでもだめなら[質問箱（会員用LINE）](#)へ。
24時間以内にお返事します。